

## 7. 第四回懇親会出席者からの一言、及び集合写真

すでに講話でお話された鈴木さんを除き、懇親会出席者からの一言を頂きました。

### 1) 今井先生

旧制の高専、米沢高等工業学校を卒業したのが終戦の年、昭和 20 年でした。終戦になったからもう一年勉強するのかと思ったら終戦直後の 8 月 21 日に卒業、ということになりました。「終戦の年の卒業生」ということで、今でもわれわれはクラス会をやっています。今年は卒業してから丁度 60 年になり還暦に当たりますし、年齢もほとんど皆 80 歳に達しました。そうした意味でも大きな節目だからもうこの会は終わりにしよう、ということになりました。ただ、なんとなく止めるのはもったいないから、記念文集を作ろうかということになり、今になってあたふたと過去何 10 年かのクラス会のメモをかき集め、集合写真も全部整理して、準備中なんです。そして、母校の図書館や国会図書館などにもできれば寄贈し、戦中・戦後における我々の歩みの一端を後世に残したい、と願っているところです。

他方、われわれのこの「卒研生の会」について見てみますと、既に毎号毎号素晴らしい会報がすでに 6 号まで出ているわけです。何時の時点かでこれらをまとめて一冊の本に製本したいと思っているのです。それまでに発行したものを合本すればよいわけで、ハードカバーの表紙をつける。そうすることで、国会図書館や皆さんのかつての就職先でもよいし、色んな公的な図書館に寄贈できるのです。毎号発行されているあのような形のものでは図書館への寄贈も困難でしょうが、100 ページぐらいに纏ればどこの図書館でも喜んで引き受けてくれます。

皆さんは一人一人がそれぞれの業績を残しながらいずれは去っていくわけで、こうした印刷物のかたちでどこかに残しておきたい、という気がしているんです。ある時点で一冊に合本して、終戦後、昭和 30 年から 40 年にかけての或るグループの「大学卒業生たち」が、日本が変わる時にどういう歩みをしたか。戦後の混乱期から立ち直って、ある程度の一流の国になるまでに働いた人たちがどういう道を歩いたか。それは仕事だけとは限らないわけです。趣味であったり、友人関係であってもいいわけです。“生きた証”として残すことができれば、との願望を持っている訳です。

このような事が実現できたら素晴らしいな、と思っていますので、ひとこと「会報」についての願望を述べさせていただきます。

いずれそのように出来たらと私も思っていますので、そのような時期がきましたらまたご相談させていただきます。(坪井)

### 2) 小野雅敏様

私の方は去年の 4 月から新しい研究所を立ち上げて、今年の 8 月 1 日で所員も丁度 10 人になりますけれども、弱電関係のディスプレイとか、においセンサーとかを開発しているところです。最近はナノテクとか言ってますので、それを生かした形で何かこれから新しいものを発明出来れば、と思っています。若い人も巻き込んでいますので、出来るだけ長く頑張りたいと思っています。というのは社長の佐々木正さんは今年 90 歳の卒寿の祝いもされているのですが、6 月末には 2 週間アメリカへ行って来られたし、日本におられても青森から島根まで行かれ、コンサルタントや講演をやってきます。あの方を見ますと、私などまだまだ歳だとは言えない状態です。

### 3) 高井謙次様

現在リタイアして自由な生活を送っておりまして、この懇談会に参加させていただいた主目的は、今井先生はじめ会員の方にお会いして、お話を聞かせていただくことでした。そんな訳で、まとまったお話しはできないのですが、日頃の雑感を交え一言ご挨拶をさせていただきます。

このところ、趣味として週 1 回程度ゴルフをやったり、インターネットで友人と囲碁をやったり、KDD に



勤務していた頃、昼休みに習ったコンラクトブリッジを再開し、時々仲間と競技会に出たりしています。その際の連絡には、インターネットを有効活用し、また、スケジュール管理はパソコンでやっています。世の中、コンピュータとインターネットの結合で情報化が進み、大変便利になってきました。

振り返ってみますと、1995年にウィンドウズ95が出てコンピュータが飛躍的に普及し、インターネットが爆発的に利用され始めてから、今年で丁度10年になりました。一般的に、一つの技術が完成するのに10年かかると言われておりますが、どうも情報化技術はこの10年では、技術的にも制度的にもまだ未成熟だと思います。楽天だとかライブドアとかベンチャービジネスで成功している企業が多々ある反面、セキュリティーの問題だとか、個人情報の流出だとか色々な問題が起きております。さらに、いつでもどこでもコンピュータが利用可能な、いわゆるコピキタス社会が実現するということがよく言われていますが、現状はまだまだそこまで行っていないようです。それと同時に情報リテラシー（読み書き能力）の問題を克服しないと、老人だとか若年層が取り残されてしまい、情報化社会の中で格差が生じてしまいます。これらの問題が解決されれば、情報化は、これからさらに大きな成長と発展を遂げることと思います。



私はKDDで長年通信に携わりましたが、今のKDDIの経営状況を見ますと固定通信は惨憺たるもので、携帯電話のauでようやく収益を上げている状況です。もっとも、携帯電話はヤフーが参入する気配もあり、今後どうなるか不透明な面もあります。ちょっと不思議なのは、これだけインターネットが普及し、情報交換に通信が利用されているにも拘わらず通信事業が振るわないのは、インターネット料金と通信料金が制度的にマッチングしていないのが最大の問題という気が致します。過去に通信業界で伝送関係の仕事に従事しておりました私と

しては、長距離通信事業が以前のような輝きを取り戻して欲しいと願っています。

話が飛躍し、長くなってしまいましたが、最後にちょっと個人的な話をさせていただきますと、今年の8月に孫が生まれる予定で、今から待ち遠しく思っています。ただ、一つ心配なのは、子供が健全な成長をして行ける環境が整っていないのではと、多少不安になります。政府は構造改革にいろいろ取り組んでいますが、私個人としては教育が非常に大きな問題だと思っています。なんとか新しく誕生する孫がすこやかに成長できる教育環境になって欲しいと願っています。

高井さんは通信の料金体系について詳しいわけですから、是非、その話をいつかして欲しいと思いますが（今井先生）

#### 4) 伊藤恭弘様

私はロータリークラブに入っていて、岡崎でも100人前後のクラブが4つありますが、留学生の受け入れ派遣や、名生（名古屋大学生）などの面倒をみています。街の行事とかで毎日忙しく、12時前には寝たことがない状況で、忙しく動いております。

#### 5) 坪井孝光様

コエンザイムQ10の話が先ほどでしたが、その他に20年来飲んでいるのがビタミンCなんです。岩城製薬のもので、500g入りの粉末状のものを買ってくると、2年ぐらいい持ちます。一サジ1gをヨーグルトに混ぜて毎朝摂っていますが、ガンの予防です。風邪も引きにくいようです。

地震の方は1983年以来、地電流の測定で地震予知を続けています。東西南北に4本の電極棒を3m間隔に埋め、その東西と南北間の電圧を自動記録計に記録させ、観測しています。異常の電圧が記録されてから24日後に地震がくるという経験則で予知しています。そのため約1ヶ月前の予知のみで、それより先の予知はできません。1ヶ月前に分ればそれから準備しようと考えています。事前に皆さんにお知らせするのもしいのですが、予報が外れることがあるわけで、狼少年になる恐れはあります。ただ、この1ヶ月以内には大地震の恐れはなさそうですが、地電流の変化の他に気をつけているのが雲の変化とミミズの出方です。満月及び新月の前後では地震の発生が多いようです。

## 6) 島田慶甫様

先ほど鈴木さんが一期一会という言葉を使いましたが、今井さんは昭和 20 年に昔の電気試験所に入りましたが、私はその2年前に宮嶋さんと一緒に入所しました。たいへん良い所に勤めさせていただいてまして、多くの良い方とめぐり合いました。今は 10 万人ぐらいいる NTT の退職者の会のなかの持株本部会員約 450 名の手伝いをしております。

入所当時は電子ビーム管の研究にたずさわっていました。その頃アナログからデジタルに代わる、二進法の初期を経験いたしました。電子管より半導体に代わる時代でもあり、仕事もグループも変わりました。移った先の半導体の研究室の雰囲気には、必ずしも私は合いませんでした。しかし、一昨年開かれた今井さんの叙勲のお祝会に出席した方々は、私が親近感を持つグループの方ばかりでした。これが今井さんなんだな、とその時改めて思いました。そこに集まった人達を見て、90%どころか 100%今井さんを心からお祝いしている人達だな、と感じたわけです。

私と今井さんとは 60 年来の付き合いですが、卒研究生の皆さんは1年足らずであったわけですが、人間の絆というのを私は大切にしておりますが、人それぞれある接点があるわけで、それを大切にしたいと思っているわけです。25 人にこの会がなりましたけれど、絆を必要だなと思っている人達ですから、私も経験があり幹事はたいへんかと思いますが、何人になろうと希望を持って集まってくる人と、いつまでもお付き合いをして行きたいと思っております。



今井研卒研究生・有志の会 第四回懇親会